平成26年11月　vol.29

いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

地域産婦人科支援講座開講にあたって

福島県立医科大学　地域産婦人科支援講座
教　授　本　多　つよし

平成26年１月１日より、福島県立医科大学内に、地域産婦人科支援講座を立ち上げました。開講に当たりましては、平則夫病院管理者および前磐城共立病院院長の樋渡信夫先生はじめ、本当に多くの方々のご協力をいただいたこと、この場をお借りして深く御礼申し上げます。このような事態に陥った最大の理由はいわきを中心とした産婦人科医師の高齢化を伴った数の不足にあります。以前より、様々なところで、その現状を説明させていただいておりましたが、まったくもって対策が立てられませんでした。そこへ持ってきて大野病院事件や福島第一原子力発電所事故が立て続けに起き、福島県全県下の産婦人科医師の減少に拍車がかかる事態となりました。現場では集約化ということ以外手だてがなく、また、集約化して数の確保がなされた後の共立病院からも医師の流失が起きました。したがって、今回の地域産婦人科支援講座はまさに画期的手法であるといえます。つまり、通常は大学からの医師派遣は医師交代が主流ですが、今回の開講は当院の医師の移動なしに充足のみおこなわれたことになりました。○○○マジックといったかたちでしょうか。

さて、地域産婦人科支援講座は寄付講座にあたります。言葉の通りに解釈しますと、大学に寄付を行い、その見返りとして医師を派遣していただく。そう思っていらっしゃる方々が多いと思います。しかし、それは大きな間違いです。実際には寄付をして、大学内に講座を開講するということです。つまり、寄付していただいたお金を運用して、講座の責任者がその運営にあたり、寄付していただいたお金は全額講座内で使わせていただくことになります。ですから、私の給与あるいは所属医師、秘書の給与や研究費、その他の雑用費などに充てられます。大学にはいわゆる寄付としてのお金は入りません。講座に入金されます。また、講座ですから、きちんとした研究もしなければなりません。講座の立ち上げにあたっては、私や本年４月より共立病院への勤務を開始した元福島県立医科大学産婦人科学講座講師の西山浩先生の当講座における役職の適応性についてもしっかりと判定されておりま

す。私の場合、英文の論文のFirst authorが３報以上との条件がつけられており、当時、論文は英文でなければだめだと厳しく教えていただいた大学時代の恩師に感謝しなければならないという気持ちに改めてなりました。さらに、非常勤医師として、古川茂宣先生にも月に一度週末に当番をしていただくこととなりました。それ以外にも、福島県立医科大学出身の二人の先生方に加わっていただくことになりました。まずは、慶應義塾大学より金杉優先生が被災地支援という形でいらっしゃいました。彼の来いわきにつきましては当院循環器科湊谷豊先生のご尽力があったからこそであります。この場をお借りして御礼申し上げます。次に清水健伸先生にもご助力いただけることとなりました。彼は家庭医を目指して、いわきに降り立ちましたが、東日本大震災時、当院の産婦人科が苦難に見舞われた際に、助けていただきました。そのご縁で、今回もお助けいただくこととなりました。これらは地域産婦人科支援講座とは直接関係ありませんが、地域の産婦人科医療を考える意味では大変ありがたいこととなりました。現在の体制は、従来よりいらっしゃった周産期のスペシャリストである三瓶稔先生、大ベテランの草野良一先生も健在で、小生がいわき市立総合磐城共立病院の一員となって以来、もっともパワーを持った体制となりました。

次に、研究について説明いたします。研究のテーマとして４項目選びました。１つめ。私がいわきに帰ってきたのは、今から11年ほど前になります。以前より地域医療への貢献を心に誓っておりました私は、早いうちから性教育に足を踏み入れることになります。これは私の父が産婦人科医師をしていた頃、とある高校で性に関する講演を行っていたのを記憶していたので、医師になったころからのテーマのひとつでした。現在、高校を中心として性教育の講演会を行っております。本年に入りまして、湯本高校、平工業高校、翠の杜高校、勿来高校等に出かけております。また、高校の保健体育の先生方向けの講演も行いました。近い将来、中学生、高校生を対象に性感染症や人工妊娠中絶撲滅を目的としたポスターや標語、漫画等を募集し、優秀作品は表彰する方向で高校の先生方と調整に入りました。これは生徒さんたちの問題をできるだけ生徒さんたちが本気で考えてくれるよう思案した結果出たアイデアです。いわきにおける若年者の人工妊娠中絶の実態は惨憺たるものがあります。これを起爆剤に変化が起きることを期待しております。２つめ。これは、自分の専門分野の子宮頚がんについてです。いわきの若年者の性感染症の多さは、そのまま子宮頚がんの発生者数の多さにつながっていきます。当院での子宮頚がんの手術件数は、全国の調査でもランクインされる多さです。一方、いわき市の子宮頚がん検診受診率は20%前後と低く、政府が掲げる目標、60%に遠く及ばない数値となっております。これは何とかしなければなりません。現在、様々な形で子宮頚がん撲滅の啓発活動を展開中であります。特に生命保険会社さんにお願いして、顧客さんを前に講演を行っております。顧客さん方は健康に対する意識が高く、熱心に聴いてくれます。また、各地区のがん検診推進委員の方々を招いて講演を行い、家族はもちろんのこと、近所の方々へ子宮頚がん検診を受診するよう働きかけてくださいとお願いしております。しかし、本当に検診率を上げるのであれば、新たな方法を取り入れないといけないことはわかっております。それは英国式のcall-recallです。ある機関が、住民

の検診の状態をすべて把握して、受診していない方に再度通知して、受診を促すシステムです。この方法の導入にあたっては様々な課題があります。まず第一に、日本と英国の保険制度の違いです。英国には１つの保険制度しかありません。したがって、国民の管理が簡単です。ですから、政府機関がcall-recall制度を導入しやすいということがあります。一方、日本では、国民健康保険、社会保険、後期高齢者、生活保護受給者とありまして、すべてを一機関で把握することが不可能です。ひとつだけ方法を見つけてはあります。住民基本台帳を利用する方法です。しかし、現在の法律（住民基本台帳法や個人保護法など）では、これを利用することは不可となっております。

とはいえ、この制度の導入が実現すれば、間違いなく受診率向上につながります。何としても導入したいシステムです。現在、このシステムが導入可能かどうか、不可能ならばどうすれば導入可能となるか、保健所の方々と協議中であります。３つめ。これは臨床に即したものを選びました。卵巣癌における腫瘍マーカーのとしてのメソテリンの有用性を検討するというものです。可溶性メソテリン関連ペプチド（以下：SMRP:Soluble Moesothelin Related Peptides）は、細胞膜に結合したメソテリンの可溶化蛋白であり、メソテリンは正常細胞では胸膜・心膜・腹膜等の中皮細胞に存在し、腫瘍細胞では悪性中皮腫・卵巣癌・肺癌等で発現することが知られています。メソテリンの生物学的機能に関しては、まだ詳細が解明されておりませんが、腫瘍の転移に関連している可能性が指摘されております。 現在までのところ、卵巣癌の臨床データは数例しか散見されず、データの集積結果次第では面白いものとなるやもしれません。４つめ。これは基礎的研究を選びました。自分の専門分野でトピックといえるものだと思いますが、癌幹細胞の存在が明らかとなってきました。この細胞集団の特徴は、非対称性分裂であり、癌幹細胞から分化した形で分裂した癌細胞は放射線感受性や抗癌剤感受性がみられるものの、もとの癌幹細胞のほうには感受性がないとされております。したがって、癌の放射線抵抗性や抗癌剤抵抗性の本体は、癌幹細胞である可能性があります。以前はこれを捕まえるすべがありませんでした。しかし、現在は細胞の表面抗原を標識することにより、選別できる可能性が出てきました。であれば、検体の初代培養が可能となれば、その中に存在するであろう癌幹細胞のみを抽出できる可能性が出てきたことになります。卵巣癌は腹水を有する場合、その中に、癌細胞が浮遊しているケースがほとんどです。それらの細胞は結合性があり、集団で存在しております。一方、腹水中には単体で存在する間質細胞も浮遊しているわけで、普通に採取して、普通に培養すれば、Contaminationを起こして癌細胞のみを培養することは至難の業となります。しかし、c-tosという一種のろ過装置を使えば、単体で存在する間質細胞はメッシュを通り排出され、結合性のある癌細胞の集団はメッシュに引っ掛かり単離されます。その後培養し、一定量増えたならば、表面抗原で標識してcell sorterにかける。さすれば、腹水中の癌幹細胞が単離できる。その細胞を用いて、抗癌剤の感受性テストを行う。文章にするのは簡単ですが、実験はそんなに簡単ではありません。しかし、自分がいままで想像してきた難治性癌の解明という観点からは、きちんと研究していきたい事柄です。研究費を決して無駄遣いすることなく、データを集積していく所存です。

最後になりましたが、一言申し上げたいと思います。当講座は、産婦人科医師獲得のみを目標としているわけではまったく持ってありません。このいわきを中心とした地域における産婦人科医療の充実を目標としております。そのためには地域住民の皆様のご理解、ご協力が是非とも必要であり、医療に従事する方々の更なるご支援が必要と考えます。何卒より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

主な略歴

●学歴

福島県立磐城高等学校卒業後、福島県立医科大学入学

●学位・免許

医師免許証取得（医籍登録第311368号）

学位取得（福島県立医科大学　医学博士　第839号）

日本産科婦人科学会認定医（19870338N9297号）

日本臨床細胞学会細胞診指導医（2047号）

日本婦人科腫瘍学会専門医（263号）

日本がん治療認定医

●職歴および研究歴

福島県立医科大学医学部卒業後、福島県立医科大学医学部産婦人科学講座入局

寿泉堂綜合病院にて研修、九州大学生態防御医学研究所生殖生理内分泌部門にて研究に従事、坂下厚生病院産婦人科勤務を経て、米国　M.D. Anderson Cancer Center Dept. of Molecular Pathologyにて、Visiting Assistant Professorとして採用され、研究に従事。帰国後、山梨医科大学産科婦人科学講座に勤務。その後、帰郷し、松村総合病院に勤務。いわき市立総合磐城総合病院産婦人科勤務を経て、現職。

●役職

福島県産科婦人科学会理事・日本産婦人科学会福島県代議員

福島県産婦人科医会常任理事

福島県医師会生活習慣病予防委員会子宮がん部会委員長

～新病院建設に向けた取組み～

○事業契約の締結について

新病院の設計・施工一括発注（デザイン・ビルド）に向けては、平成26年８月８日に優先交渉権者である大成建設株式会社東北支店と基本協定を締結し、当該協定書に基づき、事業契約の締結に向けた協議を行ってきましたが、所要の協議が整ったことから、９月26日に、「大成建設・常磐開発特定建設工事共同企業体」と事業契約を締結しました。

＜事業契約の主な内容＞

- 契約金額　金29,764,800,000円
- 事業期間　平成26年９月27日　から
平成33年３月31日　まで
- 契約の相手方　大成建設・常磐開発特定建設工事共同企業体

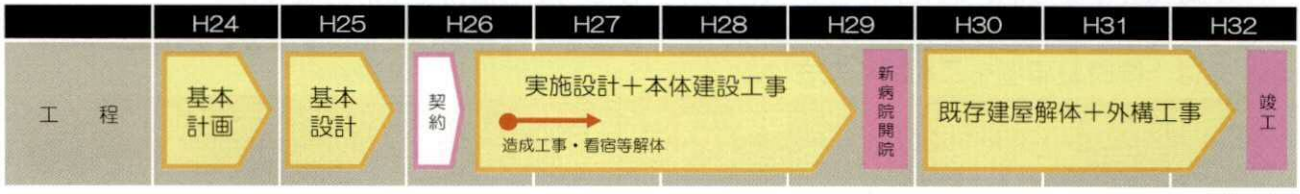
【募集開始から契約締結までの主な経過】

- ■ 公募型プロポーザル募集要項の公表（公告・３月28日）
- ■ 参加表明書の受理（４月22日）
- ■ デザインビルド事業者選定委員会による第一次審査（資格審査）の実施（４月24日）
- ■ 技術提案書等の受理（６月27日）
- ■ 選定委員会による第二次審査（技術提案審査）の実施（７月10日）
- ■ 選定委員会の審査結果報告書の受理（７月18日）
- ■ 優先交渉権者の決定（７月23日）
- ■ 基本協定の締結（８月８日）
- ■ 事業契約の締結（９月26日）

○今後の進め方について

既に、建築実施設計の検討に着手したところでありますが、今後、一部既存施設の解体工事に着手するなど、平成29年度内の開院、及び、募集要項で掲げた平成32年度末の事業完了に向け取り組みを進めて参ります。

なお、事業者からの提案を踏まえ、可能な限り、新病院の早期具現化が図られるよう、実施設計を行う中で、調整して参ります。



○工事期間中の駐車場について

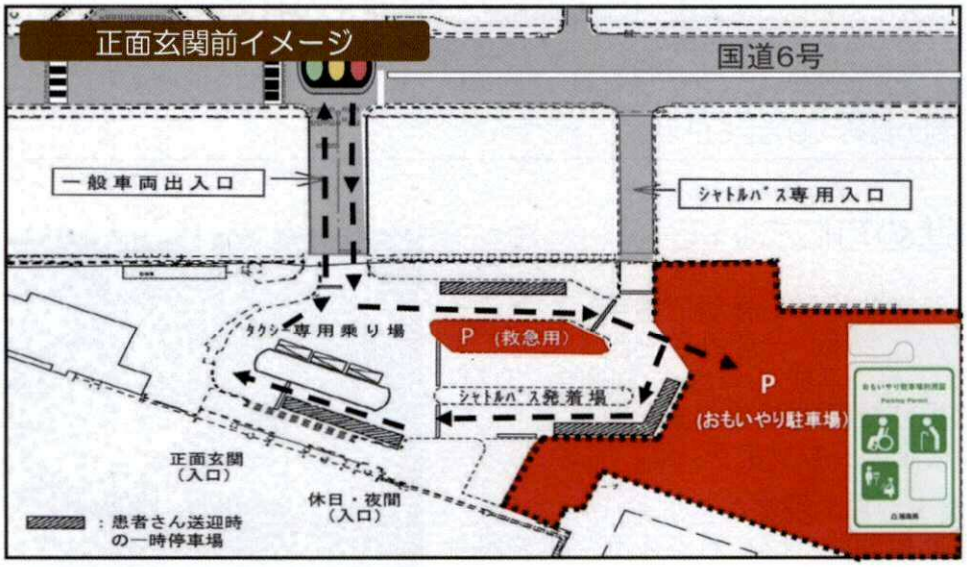
新病院の建設工事に伴い、12月11日（木）から、敷地内の駐車場は利用できなくなります。

このため、同日から臨時駐車場を開設し、シャトルバスにより患者さん等の送迎を行うとともに、正面玄関前付近についても、現在、手狭のため、新たに、シャトルバス発着場、タクシー専用乗り場、患者さん送迎時の一時停車場、おもいやり駐車場（42台）等を設けることとしました。

◆シャトルバスの運行時間

	臨時駐車場→病院	病院→臨時駐車場	運行間隔
平　日	7時～19時25分	7時15分～19時40分	5～10分
土・日曜・祝日	14時～19時15分	14時15分～19時30分	15分

※シャトルバスの発着場には、乗り降りを手助けする介助スタッフを配置します。



※おもいやり駐車場（42台）には限りがありますので、利用できる方を次のとおりとしています。
①福島県が発行する「おもいやり駐車場利用証」をお持ちの方またはそれに準ずる方（障がいのある方、要介護者または要支援者の方、妊産婦など歩行が困難な方）
②救急外来を受診される方　③いわき市休日夜間急病診療所で受診される方

※自家用車で患者さんを送迎される際は、一時停車場をご利用いただけますが、患者さん降車後は、臨時駐車場をご利用ください。

面会時間（午後2～7時）以外のお見舞いはご遠慮ください。また、ご家族による面会等につきましても、原則として、面会時間内にてお願いします。

地域がん診療拠点病院の指定を受けました!

1．地域がん診療連携拠点病院の指定について

いわき市立総合磐城共立病院は、平成26年８月６日付で厚生労働省大臣より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。指定期間は平成26年８月６日から平成30年８月５日までの４年間です。

この指定により、当院はがん診療における地域の中核をなす病院として、医療圏内で位置づけを名実ともに明確にすることができ、また住民の皆様の理解や地域の医療機関との連携も深めやすくなると考えております。

今回の指定を受けて、当院では福島県浜通り地区から茨城県北部まで及ぶ地域のがん診療に力を注ぎ、がん医療における連携体制の強化に向けて、今後とも次のような事項について、積極的に取り組んで参ります。

⑴手術療法、放射線療法、化学療法の更なる充実

手術療法、放射線療法、化学療法の更なる質の向上を図るとともに、地域における病院や診療所とのがん診療に関する連携を一層推進します。

⑵がん相談に対する支援体制の整備

電話や面談などにより、がん患者やその家族からの療養上の相談を受ける体制を充実させるとともに、地域の医療機関やセカンドオピニオン医師の紹介などを積極的に行います。

⑶積極的ながん診療情報の収集・提供

県が主催する「がん診療連携拠点病院ネットワーク事業」に参加し、がん診療連携拠点病院との密接な連携を図りながら、地域におけるがん診療情報の収集・提供を行います。

⑷がん医療従事者への研修の実施

がんの放射線療法や化学療法並びに緩和ケアを行う専門的な医師や、地域のがん医療を支えるコメディカルスタッフを養成するための効果的な研修を行います。

2．地域がん診療連携拠点病院とは

がん診療連携拠点病院とは、がん診療の地域格差を無くし、全ての地域で質の高いがん医療を提供できる体制づくり（がん医療の均てん化）を推進するため、地域のがん医療の中核となる医療機関として指定される病院です。

がん診療連携拠点病院には、都道府県がん診療連携拠点病院と地域がん診療連携拠点病院の２種類があり、地域がん診療連携拠点病院は、各地域（２次医療圏）単位を目安に指定され、地域のがん医療の拠点としての役割を担う病院です。

新任医師紹介

7月

循環器内科　長谷部雄飛 医師

東北大学循環器内科より、7月から赴任してまいりました。
いわきの医療に貢献できるよう、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

形成外科　薄葉　千絵 医師

初期・後期研修医でお世話になってから7年ぶりに戻ってまいりました。
ご迷惑にならぬよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

形成外科　江藤　綾乃 医師

約1年ぶりにいわきに戻って参りました。
いわきの医療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。
宜しくお願い致します。

産婦人科　清水　健伸 医師

平成14年　福島県立医大を卒業しました。
いわきの地域医療を盛りあげるべく頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

心臓血管外科　藤原　聡 医師

7月より赴任いたしました。
よろしくお願いいたします。

救命救急センター　賀　亮 医師

日本医科大学より赴任いたしました。
救命救急センターで半年赴任後、当院の外科にて研修を行う予定です。
皆様、これから末永くよろしくお願いします。

8月

耳鼻咽喉科　**山﨑　宗治** 医師

8月より赴任いたしました。
いわきの医療に貢献できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

9月

心臓血管外科　**中野渡　仁** 医師

自衛隊中央病院　心臓血管外科より9月から赴任致しました。
平成22年　防衛医科大学卒、熊本県出身です。
精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

救命救急センター　**鹿股　宏之** 医師

仙台市生まれ、旭川医大卒で、今年で医師15年目になります。
長く消化器外科をやってました。
よろしくお願いいたします。

10月

循環器内科　**二瓶　太郎** 医師

東北大学循環器内科より、10月から赴任致しました。
いわきで仕事ができることを大変嬉しく思っております。
どうぞよろしくお願い致します。

脳神経外科　**眞野　唯** 医師

東北大学脳神経外科から10月より赴任致しました。
宜しくお願い致します。

10月

外　　科　**藤川奈々子** 医師

東北大学消化器外科より、10月から赴任いたしました。
この地域の医療に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

11月

耳鼻咽喉科　**小林　祐太** 医師

平成24年東北大学卒、出身は千葉県です。
ひとつでも多くのことを学び、患者さんのために実践できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

地域医療連携室への予約について

予約の際は、**「地域医療連携診療予約申込書」**及び
「紹介状（診療情報提供書）」を当室までＦＡＸにてお送りください。

また、予約に関してご不明な点がありましたら、
下記まで電話でお問い合わせください。

予約受付時間　８：３０～１７：００
［土・日曜日は受付していません］

いわき市立総合磐城共立病院　地域医療連携室
電　話　０２４６（２６）２２５０（直通）
ＦＡＸ　０２４６（２６）２１１９